

【凡例】

地図中の氏名 や施設名は、

地の門にくる

ように書かれて

います。

* 薛一世 (2/8)

氏名の構に赤丸印がある家は「人特(ひ

ともち)」と呼ばれる身分の武家で、 1000石以上の石高を有していました

(i)

休憩館

(観光案内所)

保本

海が

古地図にはじめから描かれていた凡例

武

士屋敷(ぶしやしき)

古地図めぐりに便利なように加えた凡例

用水・惣構跡見学ポイント

1 大野庄用水 2 辰巳用水

3 西内惣構跡 4 西外惣構跡

5 東内惣構跡 6 東外惣構跡

. . . .

町家 好期

町家(まちや)

神社仏閣(じんじゃぶっかく) 組屋敷(くみやしき)

家中道(かちゅうみち)

.

土道居

(みちすじ) (どい)

施設

現存

跡地

寺 内禁 町また から 城 町

され、盛政が金沢御堂の地に金沢城を築いたことから、金沢は寺内 年織田信長の武将柴田勝家の配下にあった佐久間盛政によって攻略 てられ、寺内町として町並みが発達した。しかし、天正八(|五八〇) から城下町へと変化した。 織田信長没後の天正十一(|五八三) 年、羽柴秀吉は柴田勝家と近 天文十五(三五四六)年、大坂本願寺の末寺として「金沢御堂」が建

田氏の居城となり、金沢は「加賀百万石」の城下町として整備された。 尾から金沢城に移った。 功績のあった前田利家に金沢城を与え、同年四月、利家は能登の七 なお、前田利家は従来の金沢の地名を「尾山」と自称した。 利家没 こののち、明治二(「八六九) 年に至るまでの二八六年間、金沢城は前

賤ヶ岳の合戦で敗れ京都六条河原で処刑された。秀吉は北陸制圧に 江で対決し、盛政も伯父である勝家軍の指揮官として出陣したが、

前田利家は天正十四(二五八六) 年から十五(二五八七) 年に本丸に

後、利長は再び金沢とし、以後長く使われているが、尾山も根強く

町の整備を急いだ。城の周りにあった村落(石浦七ヶ村)はより遠い地 石垣を築かせた。また、城内の二の丸・三の丸・西の丸・北の丸などの天守を築き、文禄元(「五九二)年、嫡子利長に命じ、本丸周囲に高 となった。その結果、家臣団も急増したことから屋敷割を進め、城下 戦の際、二代利長は徳川方につき、加賀・能登・越中の三カ国の領主 整備に伴い、重臣の屋敷を配置した。慶長五(1六〇〇) 年、関ヶ原合 を変えていった。 代替地を与えて移転させ、武家地や拝領地を設け、城下町へと姿

下町 の拡大

幅五間の石引道などは、十六世紀末まで利家時代に整備されていた が、利家の死後、慶長四(|五九九) 年から慶長十五(|六|○) 年まで 城下町金沢を南北に貫く北国往還、金沢城の東にまっすぐ伸びる

城となると、前田家の有力家臣が金沢に移住し、武家の菩提寺も町 大名の城下町整備はさらに進展した。まず一国一城令で領内諸城が廃 に、金沢城の東と西に惣構が二重に巡らされ防備体制が整った。 人も急増した。元和二(二六|六) 年に金沢の外港宮腰(現・金沢市金 大坂の陣が終わり徳川幕府の覇権が固まると、一二〇万石の巨大

> 内側に重臣層・中堅藩士を配置、惣構の外側には足軽組地や寺院群 など主要道に沿って町人人口が増え、居住地が整備された。惣構の したものである。武士人口の増加に伴い北国往還・石引道・宮腰往還 石)に続く宮腰往還を直線に付け替え、犀川南部の寺町台地や浅野 北部の卯辰山麓に寺院群を作り始めたのは、そうした動向に連動

隆盛を究めた一向一揆の歴史を警戒しての処置といわれる。 郡村部から城下町に移住させられた浄土真宗寺院の多くは寺院群 あった。この三寺院群の中に浄土真宗(「向宗)寺院はごく希で少ない ○○以上の寺院が集住するのは巨大城下町金沢ならではの特色で の三寺院群と呼ばれる。城下町の縁辺に三つも寺院群が形成され、 諸寺院が寺町台に移転され寺町寺院群が形成された。また小立野 の参詣道が寺町台に整備されると、十七世紀半ばまで順次、城下の 配置され小立野寺院群と呼ばれ、卯辰山麓の寺院群とともに金沢 台の石引道周辺に藩主菩提寺である宝円寺・天徳院・如来寺などが が、のちに家臣団や町人までも野田山に墓地を置いた。前田家墓所へ 前田家は犀川南部の野田山に歴代藩主とその一族の墓所を営んだ

> 武士の この災害を機に町人地を惣構の外側や主要往還沿いに移転させ、 別に都市計画された城下町金沢が整然と完成することになった。 再び城下町 利常死後、隠居領が加賀藩に追加され一〇二万石の加賀藩が復活し、 れ、城下町の武家人口が減少に転じた。しかし万治元(二六五八)年の 加賀藩のほかに富山藩・大聖寺藩・利常隠居領(小松城)が分割さ 九) 年に小松に隠居したとき、 構内部の武家地拡大につなげた。他方で三代利常が寛永十六(1六三 金沢で寛 組地が大きく増え、寺院群も拡張され、 永八(二六三二) 年と十二(二六三五) 年に大火がおきたが 人口も増加。 それ以後の五〇年間に与力・足軽など下級 一二〇万石の藩領が四つに分割され 十七世紀末には身分 惣

石川県立歴史博物館学芸専門員を経て平成十九年四月より現職。 専攻は日本文化史(有職故実)、文化資源学。 石川県立郷土資監修 長谷川 孝徳(はせがわたかのり)●北陸大学 未来創造学部 国際 文化財保存修復学会 文化資源学会、 日本薬史学会 未来創造学部 国際教養学科長 4四月より現職。日本古文書学石川県立郷土資料館学芸員、 イベント学会に所属する。 教

숙

地方史研究協議会委員。学文学部日本海文化研究室研究員、 本近世史(藩政・城下町・日本海海運)編集協力 木越隆三(きごし・りゅうぞう) 教職などを経て現職。 石川県教育委員会文化財保護課、 金沢市史専門委員

●石川県金沢城調査研究所 所長。専門は日 金沢大

古地図めぐりをする際の留意点

江戸末期の安政4(1857) 年頃に作成された 今も藩政期の町割りが残っています。古地図めぐりを通して 約160年前の金沢を感じてください。

- 幹線道路の整備や土地の細分化が行われたため、古地図 とは違う箇所があります。
- ●寺社、用水、坂道などは、当時のまま残っているものが多く、古地 図めぐりの手がかりになります。
- ●主に裏通りでは藩政期の町割りを感じることができます。

・長町・石引エリアく

拝観の可否については、各施設にご確認ください。

伝統的なまちなみ保全のための取組み

戦火を免れた金沢のまちなみは、 全国的にもめずらしいもので 古くからのまちなみが特によく残る東山ひがし、主計町、卯 寺町台の4地区は、重要伝統的建造物群保存地区と して国の選定を受けています。

また、歴史的な特色のある地区を、金沢市独自のこまちなみ保 域として保全しており、現在9区域が指定されています。

古地図めぐりをガイドします

「まいどさん」は、金沢をより深く 知っていただくための活動をして いる観光ボランティアガイドで す。本マップを活用した観光コー スのご相談にも応じますのでお 気軽にお申し込みください。



●希望日の10日前までにお申込み

【予約・お問合せ先】 金沢市観光協会 ☎076-232-5555 (10時-16時 土日祝休)

●ガイド料は無料

※まいどさんの交通費、入場・入館料、昼食代等の実費はご負担ください

本パンフレットについてのお問合せ先

金沢市観光政策課 金沢市広坂1-1-1 Tel:076-220-2194



発行:金沢市 金沢市観光協会 2022年4月増刷

このパンフレットに掲載されている解説及びプロフィールは、平成25年時点のものです。

資料提供:表紙上/金沢市 表紙下/石川県立歴史博物館所蔵 金沢城下図屛風 古地図/石川県立歴史博物館所蔵 大鋸コレクション 金沢城下絵図



1 大野庄用水

現在の取水口は犀川桜橋の上流右岸で、河川敷を暗渠で通り新橋上流



で開菓となる。長町武家屋 敷周辺を経て犀川河口に注 ぐ、延長約10.2kmの用水で ある。鬼川、御荷川とも呼 ばれ、金沢城を築くときに、 城下まで木材を運んだとも 伝えられる。

2 辰巳用水

寛永8(1631)年の大火の翌年、3代前田利常が金沢城内に引水するた め板屋兵四郎に命じて造らせたといわれる用水で、玉川上水、箱根用水

などとともに、国内有数の古い用水であ る。また、兼六園の曲水の主要な水源と して利用されている。平成22(2010)年に、 東岩取水口(上辰巳町) から兼六園まで の約11kmのうち流路が変更されていない 約8.7kmが国の史跡に指定された。



3 西内惣構跡



慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に 謀反の疑いをかけられた際、客将高山右 近に命じて掘らせたと伝えられる金沢城 西側の防御ライン。惣構は堀や土塁によ る防御施設であり、尾山神社から尾張町 を経て浅野川べりまで、約1.6kmにおよ ぶ。終点の浅野川口の主計町では緑水 苑として当時の遺構を見ることができる。

4 西外惣構跡(一部、鞍月用水)

これまで慶長15(1610)年に篠原出羽守孝によって造られたとされてきた

が、近年、慶長4 $\sim 6(1599 \sim 1601)$ 年 に内惣構と同時に建設されたとの指摘 もある。本多町3丁目から香林坊を通り 長町の鞍月用水に至り、同用水と共用 して浅野川まで、約2.8kmにおよぶ。城 側に土居を盛り、竹薮などの緑地帯を 設けていた。



香林坊2丁目街園

5 東内惣構跡

慶長4(1599)年、前田家が徳川家康に謀反の疑いをかけられた際、客

将高山右近に命じて掘らせたと 伝えられる城下町東側の防御 ライン。小尻谷坂付近から始ま り橋場町を経て浅野川まで、約 1.3kmにおよぶ。城側に土居を 盛り、竹薮などの緑地帯を設け ていた。

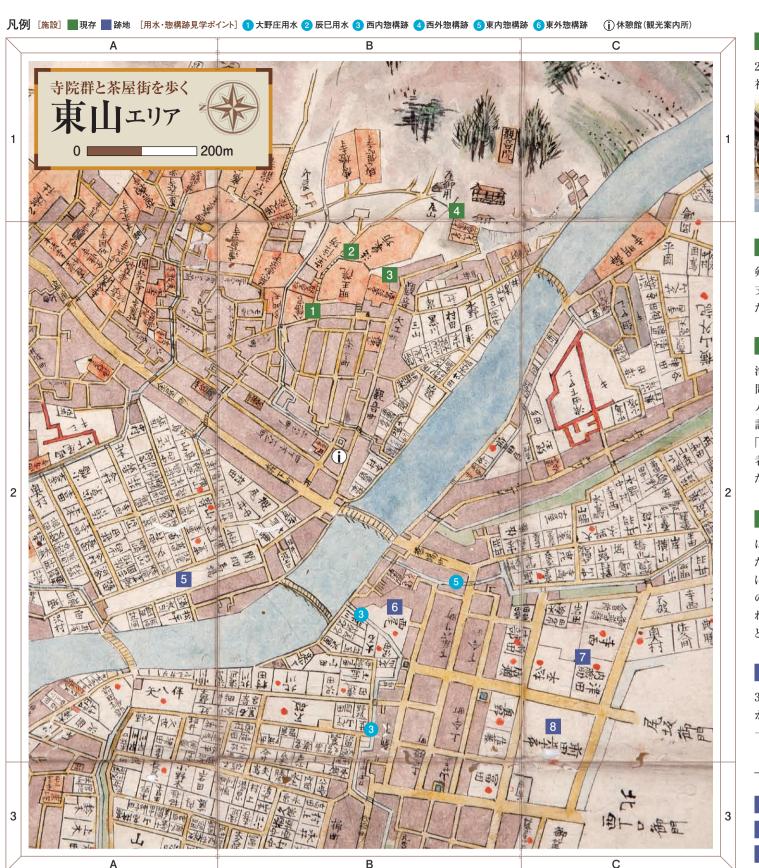


枯木橋詰遺構

6 東外惣構跡



これまで慶長15(1610) 年に篠原出 羽守孝によって造られたとされてき たが、近年、慶長4~6(1599~1601) 年に内惣構と同時に建設されたと の指摘もある。八坂から材木町を 経て浅野川まで、約1.4kmにおよ ぶ。城側に土居を盛り、竹薮などの 緑地帯を設けていた。



1 宇多須神社(八幡宮

☎076-252-8826(宇多須神社社務所) 【 MAP 東山B-2 】

2代前田利長が慶長4(1599)年藩祖利家の神霊を祀るため建立したが、神として公然と祀ることをはばかり、越中守山(現・高岡市)から物部八幡



宮、越中阿尾(現・氷見市)の榊葉神明宮を勧請して、金沢城の鬼門の守りとした。 明治6(1873)年、利家の神霊が尾山神社 に遷座されたが、氏子に守られ卯辰山の 古名にちなみ宇多須神社となった。平成 16(2004)年、尾山神社の分霊を受け、再 び利家の神霊も祀られている。

2 宝泉寺(法泉坊)

☎076-252-3319(宝泉寺寺務所)

剣術の守護である摩利支天を本尊とする。藩祖前田利家は兜に摩利 支天をしのばせ、戦いに臨んだと伝えられる。泉鏡花の小説の題材になっ た五本松があり、そこからは金沢市街地を一望することができる。

3 七稲地蔵

3076-252-7453(寿経寺寺務所) 【 MAP 東山B-2 】

浄土宗寿経寺の門前にある七躯の地蔵尊。安政5(1858)年6月から3ヶ月間冷雨が続き大飢饉となって米価が高騰、7月11・12日の夜、民衆約2000

人が卯辰山に登り、金沢城に向かって大声で訴えた。金沢城下始まって以来の大事件で、「安政の泣き一揆」と呼ばれている。その首謀者7人が斬首あるいは獄死し、その冥福を祈った地蔵である。



4 観音院

☎076-252-6523 (観音院寺務所) 【 MAP 東山B-1 】

はじめ石浦村(現・本多町)にあったが、慶長6(1601)年卯辰山に移転したと伝えられる。元和2(1616)年3代前田利常夫人珠姫の発願で現在地に造営された。以後、藩主前田家の子女は、代々産土神として参詣するのを常とした。旧暦7月9日には藩政期以来の行事「四万六千日」が今も行われ、境内で買ったトウモロコシを軒先につるすと家内安全・商売繁盛などの功徳があると伝えられる。また、藩政期には神事能が催されていた。

5 関助馬場石碑(関助馬場)

【MAP 東山A-2】

3代前田利常のころ、葡萄報報等分支配兼馬具支配の佐賀関助(100石)が、荒廃していた馬場を再興したことから、この名がついた。この付近一帯の町名は古くは「馬場」であった。

1 ~ 5 まで、およそ1.6km(階段およそ300段あり)

6 久保市艺剣宮・恵寿金沢病院(西尾)

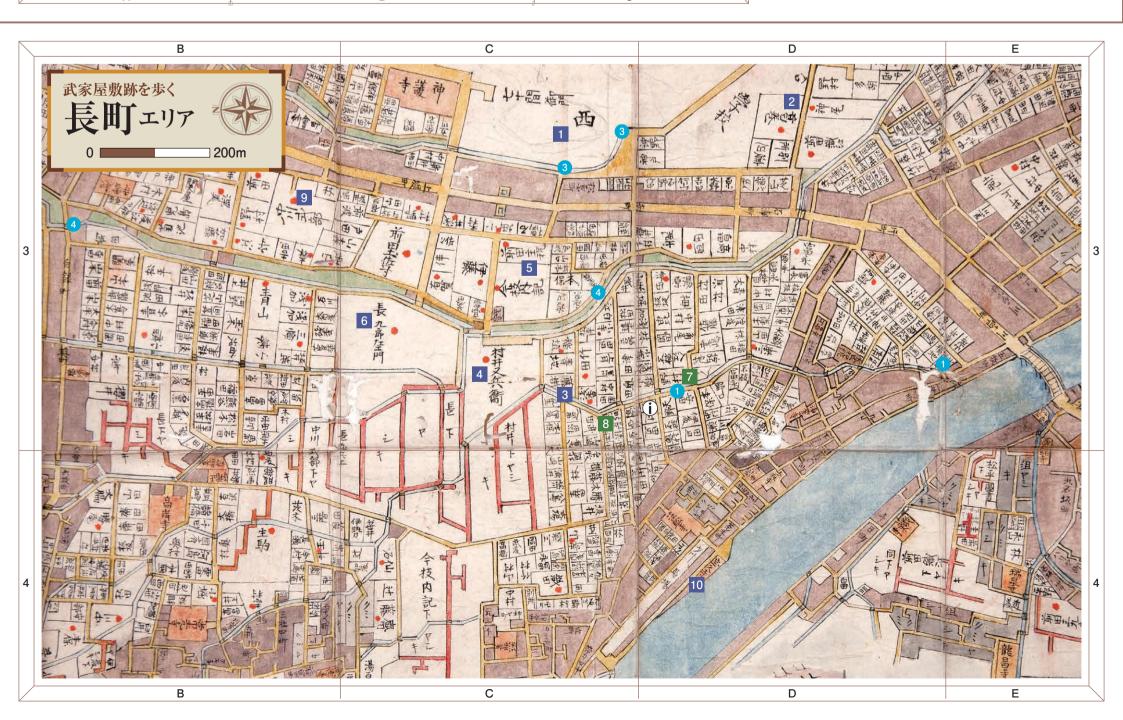
☎076-221-2894 (久保市乙剣宮社務所) 【 MAP 東山B-2 】

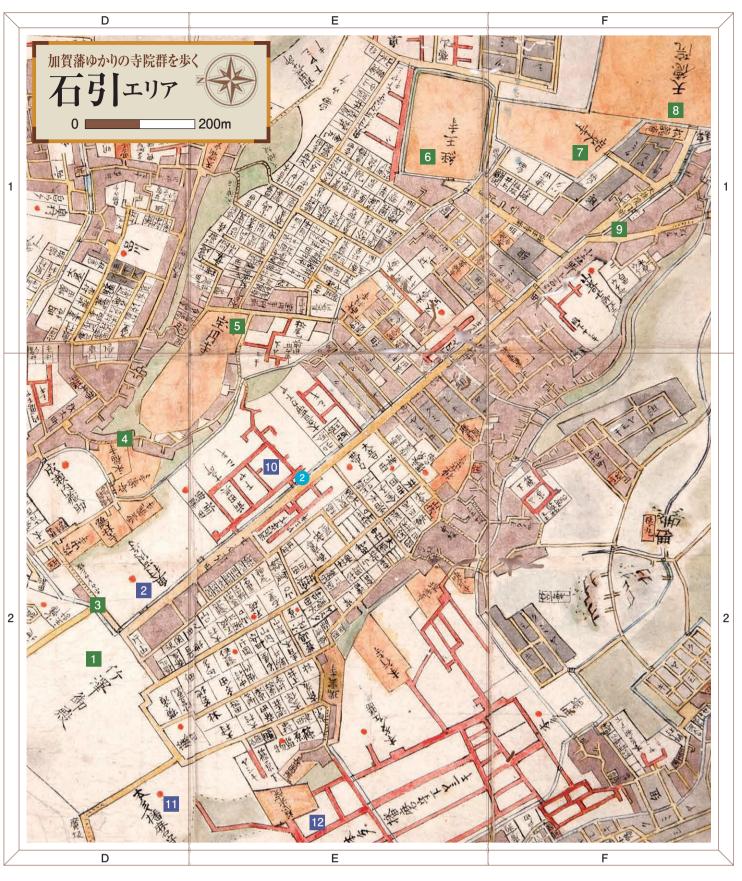
▼ 金沢健康プラザ大手町・金沢市医師会館(津田内蔵助)

【 MAP 東山C-2 】

8 KKRホテル金沢・他(前田与十郎)

【 MAP 東山C-2 】





1 尾山神社(金沢城金谷出丸跡地)

☎076-231-7210(尾山神社社務所) 【 MAP 長町C-3 】

藩主らの隠居所などが置かれた 金沢城金谷出丸跡に、旧加賀藩 士らが明治6(1873)年に建てた 神社。卯辰八幡宮に祀られてい た藩祖前田利家の御神霊を遷座 し、祭神は前田利家と夫人まつで ある。明治8(1875)年建立の3層 アーチ型楼門の神門は国指定重 要文化財。



寛政4(1792)年に現在の兼六園に建てられた藩校の文学校明倫堂と武 学校経武館が、文政5(1822)年3月にこの地に移転し、明治3(1870)年



🧧 に廃止されるまで、教育の拠点となっ た。明治19(1886)年、全国5地区に 分けて1校ずつ高等中学校を設立 する中学校令が公布され、翌年第 四高等中学校がこの地に開校、明 治27(1894)年第四高等学校(四高) と改称された。国指定重要文化財。

☎076-263-3640 (金沢市足軽資料館事務所) 3 金沢市足軽資料館(藤掛) 【 MAP 長町C-3 】

加賀藩の足軽であった高西家と清水家の2棟を移築保存展示してい る。加賀藩の足軽屋敷は一戸建てで、屋敷の周りには生垣を回し、内 側に植木が施されていたことから、その様子が再現されている。高西家 の足軽屋敷は、加賀藩の足軽飛脚の屋敷地であった旧早道町(現・金

沢市菊川2丁目) に残され、平成 6(1994) 年まで住居として使用 されていた。清水家の足軽屋 敷も、高西家と同じく旧早道町 (現・金沢市幸町)に残されてい たもので、明治時代以降も代々 子孫が受け継ぎ、平成2(1990) 年まで住み続けられていた。



4 中央地区新中学校(版称)整備予定地(村井又兵衛)【MAP 長町C-3】

加賀藩年寄役村井家(加賀八家 1万6500余石)の屋敷跡地。初代又兵 衛長頼は天文12(1543)年尾張国荒子村に生まれ、12歳で藩祖前田利 家の兄利久に仕えたが、翌年から利家に仕えた。以来利家に従い、数々



の戦役に出陣し、天正19(1591)年従 五位下豊後守に叙任し、慶長4(1599) 年利家没後その夫人芳春院が江戸へ 人質として赴く時、これに従った。子孫、 代々年寄役として藩に仕え、前田家創 業時以来の功臣の家柄である。

5 金沢市文化ホール(前田主税・今枝内記) [MAP 長町C-3]

前田主税家(2450石)、今枝家(1万4000石)はいずれも人持組に列する 藩士。今枝家は人持組の中では最高禄高の家柄であり、美濃国の出身

で、稲葉通朝、織田信雄、羽柴秀 吉、羽柴秀次に仕えた。2代前田 利長に招かれ、代々家老職を務 めた。また、今枝近義は5代前田 綱紀の傅役も務め、歴代藩主の 中でも名君と言われた綱紀を教育 した功績は大きい。



6 玉川公園·三谷産業(長九郎左エ門) [MAP 長町C-3]

加賀藩年寄役長家(加賀八家 3万3000石)の屋敷跡地。長家の遠祖は源 頼朝の御家人長谷部信連で、代々能登守護畠山氏に仕えた。 天正5(1577) 年上杉謙信が能登に侵攻、長一族は殺害されたが、一人生き残った連龍は 織田信長を頼り、同8(1580)年信長より鹿島半郡を与えられた。翌年、前田利 家が能登に入国すると、その与力となった。以後、代々前田家に仕えた。

1 ~ 6 まで、およそ2.3km

7 武家屋敷跡 野村家

8 旧加賀藩士 高田家跡

9 松ヶ枝緑地(中川式部)

10 犀川神社(宝久寺)

【MAP 長町B-3】 【MAP 長町D-4】

【MAP 長町D-3】

【MAP 長町C-3】

1 兼六園(竹澤御殿)

☎076-234-3800(金沢城·兼六園管理事務所)

5代前田綱紀が延宝4(1676)年に金沢城の外庭として蓮池庭を作ること に始まる。その後、12代斉広が文政5(1822)年、隠居所として竹沢御殿 を築造した際、奥州白河藩主の松平定信に「兼六園」の揮毫を依頼し

た。13代斉泰は斉広の死後、 竹沢御殿を取り壊し、霞ヶ池 を掘り、栄螺山を造るなどし て、庭を拡張・整備し、ほぼ現 在の回遊林泉式庭園の形と



2 金沢医療センター(奥村河内守)

加賀藩年寄役奥村宗家(加賀八家 1万7000石)の屋敷跡地。奥村宗 家の祖、奥村永福は尾張国荒子で前田利家の父利春、兄利久に仕え、



のち前田利家に仕え、伊予守と名乗った。 代々年寄役として藩に仕え、前田家創業時 以来の功臣の家柄である。屋敷は初め、 金沢城内にあったが、後に、この地に移転 し、明治を迎えた。明治以降は陸軍衛戍 病院、国立金沢病院を経て現在に至る。

3 八坂(宝幢寺坂)

【MAP 石引D-2】

昔、付近の木こりが小立野に通 う坂が八つあったことから、また はたくさんあったことから、八坂 という名がついた。宝幢寺が あったことから宝幢寺坂とも呼 ばれた。また、八家奥村家初代 伊予守屋敷の横の坂であること から、伊予殿坂とも呼ばれた。



【MAP 石引D-2】



宝円寺の裏門にある坂 なので、裏門坂とも呼ば れる。木曽の山中のよう な幽邃な所なのでこの 名がついたと伝えられ

5 護国山宝円寺

☎076-231-6050(宝円寺寺務所) 【 MAP 石引E-1 】

曹洞宗の寺院。天正11(1583)年加賀藩祖前田利家が創建した、前田 家の菩提寺。越前府中(現・福井県越前市)に利家が入部したとき大透

圭徐和尚に帰依して、同9(1581)年能登 に入国後、和尚を迎え七尾宝円寺(現・長 齢寺)を開山、のち金沢に移った際本寺を 開山した。利家と徳川家康が伏見で会見 した際、死を覚悟して自画像と髪を埋めた 場所と伝えられる御影堂と御髪堂がある。



6 寿福山経王寺

☎076-221-4873(経王寺寺務所) 【 MAP 石引E-1 】

日蓮宗の寺院。慶長6(1601) 年3代前田利常の生母である寿福院の実 家の菩提寺である、越前府中(現・福井県越前市)の経王寺より日護上 人を2世として招いて住持とした。寛永8(1631)年江戸で没した寿福院 の葬儀が行われたが、その直後の金沢大火で延焼し、正保4(1647)年 寿福院の17回忌に利常によって再建された。

7 龍宝山如来寺

☎076-221-0833(如来寺寺務所 【 MAP 石引F-1 】

浄土宗の寺院。天正年間(1573 ~92) に越中増山(現・富山県砺 波市) に創建され、のち越中高岡を 経て金沢の卯辰山麓に移り、寛文2 (1662)年現在地に移転した。徳 川家康をはじめ、秀忠・家宣・家継 家重などの徳川家の位牌が安置さ れている。市指定有形文化財。



8 金龍山天徳院

☎076-231-4484(天徳院寺務所) 【 MAP 石引F-1 】



曹洞宗の寺院。3代前田利常夫人の 珠姫(2代将軍徳川秀忠の娘)の菩提 寺として、元和9(1623)年に建立され、 夫人の法号から天徳院と名付けられ た。現在の境内地はかなり縮小されて いるが、山門(県指定有形文化財)など の風格には当時の様子がしのばれる。

1 ~ 8 まで、およそ2.8km(階段およそ250段あり) ─

9 下馬地蔵

【MAP 石引F-1】

10 紫錦台中学校(前田典膳下ヤシキ)

【MAP 石引E-2】 11 石川県立美術館·石川県立歴史博物館(本多播磨守)【MAP 石引D-2】

12 本多町・鈴木大拙館(本多播磨守下ヤシキ・本多左膳・本多刑部) 【MAP 石引E-2】